

びました。こゝに到りまして更に西洋文明は加はり總ての色の混合した灰色の状態となつて居るのでござい
ます私共はこの標準も統一もない只今の状態で長く續くことは希望しません或一部の人々は日本の禮式は不衛生であり時間等も不經濟であるから西洋の禮式に限ると申すけれどもそれほどまでに外國に心醉せずとも往時の如き太平の夢をむさぼる時ではありません現時の如く世界各國人と交通し或は之を親友として交際し中には親屬の關係さへ結ぶものがありますれば從來の日本禮式にては先方に通じません。従つて遂に西洋風を加へるやうに餘儀なくせらるゝと共に現今の禮法の紛亂混雜に陥れるをも止むるを得ない次第でありますこゝに於て將來に於ては只今の事情をよく斟酌して統一せる新しき國民禮法の現れ來ます様希望する次第でございませす之が將來の禮に對する希望の一つでございませす。

又作法は人として缺くべからざるものである以上婦人のみか修むべきものではありません。よく女の子のくせにお行儀が悪い等申しまして男の子の無作法を社會が大目に見るやうな傾あるを意味して居ます。電車等に乗つて見ましてもかける場所なく混雜して居るのに

らん事を希みます。已に前にも申しました如く國に禮あるは其國の品位高きを表はす所でありませすから私共教育の任に當る者は先づ自ら修養を重ねて學校教育に於ける作法の教授の任に當つて其職責を果さなければなりません。

箏曲に就て

何によらず眞に物を見、眞に音を聞く事は困難な事だと思ひます。藝術上の鑑賞は作家の打ち込んだ魂即ちその精神内容と相融合するまでの敏感さを持たないでは容易に出来る事ではない。創作家は自然から自然の内心を索るために最も謙讓な態度を保つて行く。それと同じく鑑賞の場合に於ても矢張その心持ちが必要であると思ひます。然しこの眼を開くためには、先天的敏感と後天的修養に待つ所が多いのです。乃ち音楽を聞く事の出来るまでにはいゝ音楽を聞いて理解力を増しまた一般的な豫備智識をもつ事が必要と思ひますよく音楽が好きだといふ人がある。藝術を好惡の感念で批判する事は結構なものではない。唯好きだといふ位の程度の人では必ず本當の理解は持つてゐない。乃

一人で男の人は席を廣くとつたり狭い二人の間に割り込たり又煙草につきましても飲むべからざるところで飲み其煙が人の方に行くのもかまはずに居ますし又社會の人も男子といふ前提の許に見のがします。けれども禮の前には性の區別はございませせん。今後は男子も女子と同じく作法を學びお互に氣品の高い國民性を作り文明國六大強國てふ形容詞に恥ざる國民となる事を希みます。之がその二でございませす。

第三は學校に於ける作法は只作法室だけの作法の如くでございませす。作法室に於ては進み退くにも左右とかましく申しますけれども室を一步出でてはしないものとお互に考へられます先日もある室の前に病人がおりますから足音を靜かに注意のあつた室がありましたがおそらくは大きい音で走られる事があるからだと思ひます作法の時間だけ白足い袋をはいて室を出ると灰色に變りますそれで只作法室だけの作法でなく日常の座作進退に廣く應用致し度く思ひませす。我文部省にては大正二年六月小學校作法教授要項を編纂し之を發布され國民教育に於ける作法の根定を定められました。中等教育に關するものも早晚發表さるゝの報がありませすがさすれば中學校にもおかれませうその一日も早か

ち我々は音楽がどうしてもなくてはならないといふ必要をもつてきて初めて眞の理解がもてるやうになるのです。

我々は各曲を聞く毎に安々とその零圍氣の中に没して魅せられるが其麼な名曲が安々と出來たかと云へば多くの場合はそうではない。名曲は修養のない人間の胸にも何かを傳へる然し修養して聞く耳を持つたものではなくては全部を受け入れ難いと思ひませす。工場の音川の流れ風の響きは實に音樂的な美です。しかし綜合されて個性的特質を持つた情緒が作品の上に表現されて初めて眞の音樂となるのです。

自然の種々な音が藝術家の心に反映を起して樂曲が構成される。新しい形式に綜合され、統一されて美世界が初めて創造される。我々は作家の希ふた世界の空氣に觸れなくては眞の鑑賞をもつたことにはならないと思ひませす私の知つてる範圍で箏曲について云へば今に到るまで演奏者はゆるに重に手の綺麗な事許りを云つて樂曲に對する眞の批判を缺いて居た事は最も遺憾な事でありませす。いゝ加減な漫然とした心持ちで音樂をやつたり聞いたりする事は悪い事です。やる人も聞く人ももつともつと眞劍はならなくてはいけないと

思ひます。

これから少し箏の歴史を延べます。歴史的叙述はあまり好みませんが音楽の歴史的變化例へば箏曲などの時代と目的によつていかに變遷したかを一度延べる事は皆様にも必要でありませう。歴史は重に鼓村氏著『日本音楽の話』に云ひつくしてありますから其の通りを申し上げます。

箏の起原は支那で秦の蒙恬といふ人が始めたと言書に散見して居ります。時代は今から二百七十年前で始皇帝の世であります。

我國に傳つたのは仁明天皇の御代遣使藤原の貞敏が入唐してとつて來たとしてあります。隨行には和琴の名人藤原の長松もゐましたが異文明を渴仰した彼等はいかに好奇の眼で彼の國の文物を見た事が想像する事が出來ます。玄象青山獅子丸などの琵琶も其時とつて參つたといふ事です。それが今から千七百八十年前でした以前にも日本には和琴がありました。崇神天皇の枯野の琴天武天皇の吉野の宮で彈せられた琴は皆和琴です。即ち琴瑟箏筑、皆別物です。

急就篇に箏は瑟の類、本は十二絃今則十三絃とあります箏の傳來があつて以前に日本に來た唐樂、菴巴樂、

ます。時は後光門天皇は正保年間から後西院天皇の萬治寛文の頃です。貞亨二年に沒しました。

檢校没後五十年にして生田、新八橋、隅山、繼山、藤池諸流が續出しましたが唯生田流と纒かな東繼山の勢力が榮えて他はこの二流の併合に漕ひました。

これより先き永祿年間に傳來した三味線樂が漸く民俗樂の基礎をなしたので生田檢校は時代に鑑みて三味線との握手を企てました。合奏は此時に初まつて居ります。生田の系統には倉橋、安村、三橋、久村、石塚の各家がいで、いよいよ隆盛を極めました。この時が元祿でその後百年して文化文政の時は徳川文明の絶頂でやで墮落期に入りかけた時です。江戸の總録山田檢校は時の流行を極めた豊後節をとり入れて巧みに唱ひ出しました。彼は生田流から出た名人だったのであります。

文化文政から百年、明治三十三年鈴木鼓村京都寺町に京極流を唱導いたしました。私の見る所では明治にいたつて否鼓村にいたつて箏が藝術といひ得るものになつた事を揚言して憚らないのであります。曲形を分類すれば

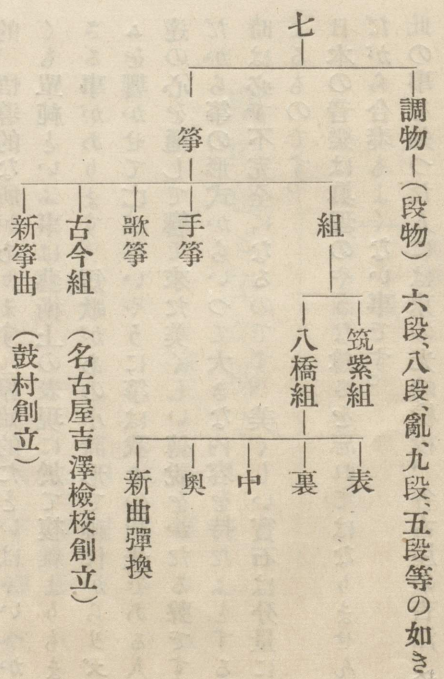
高麗樂などに一の新形式を加入し降つては日本古來の聲樂たる催馬樂、朗詠の伴奏樂器として廣く使はれる様になりました。然し箏の獨立して演奏されたのはそれからずつと後のことです。

宇多天皇の寛平年中に命婦石川の色子豊前彦山權現に詣で、唐人より樂を傳承したのが箏の起りと云ふ説があります。これは筑紫樂の起りで現行はれて居る箏には何ら系統を率かないものであります。

別に筑紫流なるものがあります。筑後の久留米善導寺に傳つたのを筑前の賢順といふ人が習ひ受け賢順また同國の諫早の慶岩寺の僧玄恕に傳へました。

玄恕或時上洛し箏を弘めました。郷里に歸るに臨み藪大納言殿が其藝を惜まれて門人一人を代として上洛せしめよとのことにより門人法水を登せたのに藏師に劣ること甚だしかつたので自ら耻ざ江戸に出て柏屋と號して琴屋になりました。

其頃山住句當といふ人があつて柳川加賀市と共に法水に逢ふて禮法を學び更に玄恕の家を尋ねて筑系流の奥儀を極め俗耳に遠きを知つて新たに淫聲を加へ十三曲を公にして八橋流と稱へました。これが八橋檢校で即ち生田流の前身です。箏曲獨立後七百六十箏程になり



八橋組は筑紫組曲形を段作したもので歌調も其儘襲用しておられます。筑紫組の八拍子一行を十六拍子一行に直し旋法を水調から平調子になほしました。傾斜を緩にした事は八橋の豪い所ですが同時にや、陰鬱を色を加味して來ました。

感情方面から言へば波瀾に乏しく唯曲形を六段のスタンサルした所は其の後も嘗て見ない日本樂に現はれた特色です。五段がや、高調に達してゐます。手事は全く合奏が目的で時代として必要の要求だつたのです即ち三味線といふ民俗樂發達につれて箏曲も幾

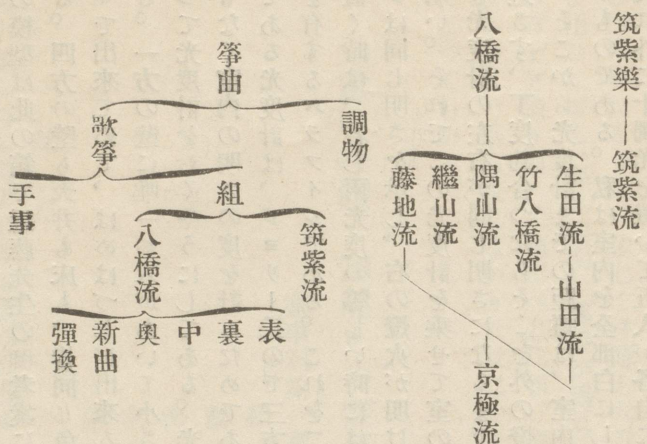
は適度が下るのは當然です。平事は組と違ひ曲節は實に多様で散文的なだけに手法に制限のない發達をいたしました。其他擬音(松風の六とか手鳥とか)を取り入れて聞かせ換調を多くして箏の手法上の發達を極度に高めました。そのかはり歌謡が妙を失ふたわけでありませぬ。

歌物はこの反動として起りました。山田流はこの時江戸に現はれました。天保の頃には生田の方に光崎檢校が三絃合奏を避け箏の特長を聞かせましたが俗間に行はれるに先き立ち徳川の政府に扞渉されて版木は絶版され身は福井に流されました。曲は古今の名曲です。明治初年尾州家の檢校は歌人を兼ねた平曲の名人でした。が歌詞の墮落を歎いて材を萬葉、金塊集にとり大いに箏の獨立を喝導しました。現今の四季の曲手事物千鳥の曲などはそれです。

最後に鼓村の新箏曲について少し申し上げます。鼓村は歌詞の墮落を歎いた上に更らに生田流を一層叙情的にしたいと思つたのです。あの單純な樂器を本質的な特性を發揮させるにはどうしても『ソロ』にある事をも主張しました。かるが故に彼の曲は實に一曲一曲匂ひの豐潤なものであつて新らしい清鮮さを味はせて

校も居ました。鼓村もその一人りでしかも箏を眞にうまく聞かせる名人でせう。クラシクな傳導に寢醒めにローマンテツクな感情の方へ箏を導いた人は鼓村一人です。

箏曲の分類



くれます。曲形は調物と歌箏とに別れ更に童曲、火曲、劇曲、小品、雜などに別れております。我々は人間の複雑な心理や感情を明に見る事の出来る立派な數理の上に基礎を置いた西洋音樂を愛しますしかも我々が箏といふ在來の樂器を喜ぶ所以はどこにあるかと申しますと一言にして寶石のやうな尊さを申しあげたいのです。音樂にはアブサンのやうに強いのもあり微風のやうに弱いのもあります。いかにたゞいても弱くて美しいものは三味、箏、笛など。在來の日本樂器の特色ではありますまいか。日本の樂器はその特質としては必ず靜的、悟導的な所があります。原始的だといはいへなくも單純といふ事は藝術上の表現に於て複雑よりもまさる事があります。短歌があつた小詩形で神代からリズムを響かせて亡びないやうに箏は我々の祖先である人達の心を通して響て來た美しく傳説をかたる聲です。だから箏の形式からいつて大きな内容を持たふとする時は必ず不完全になるのです。美しい寶石は分量にやるものです。日本の音樂は眞理のやうな尊さを忘れてはなりません。だが合奏もよくない事です。此の事を知つた人には京の光崎檢校、各古屋の吉澤檢

歌物

古今組

新箏曲

壁の色と室の明さ

- 家三
- 横幕 みね
- 武田 さの
- 内田 トハ
- 松浦 千代
- 木下 樂代

燈火によつて室内を照す場合に、其明さは燈火の光度と室の大きさと、室内諸物の色によつて、主に差のあるものである。其中、燈火の光度につきては、五燭光よりも十燭光が明いといふのであるし、室の大きさは、十疊間の十燭光よりも四疊半の十燭光が明いといふのであるから、誰も氣づくことであるが、室内の色によつて、同じ燭光を用ひた場合に、どの位の明さの差が生ずるものかといふことは、餘り一般の人に注意されてゐない私共はそれを數字の上に表はして見たいと考へたのである。それで實驗の方法と結果の報告をする。